

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

内務省

国別政策および情報ノート

パキスタン：ハザラ族

2.0 版

2019 年 11 月

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

目次

評価	4
1. 序	4
1.1 申請の根拠	4
1.2 留意点	4
2. 問題の検討	4
2.1 信憑性	4
2.2 適用除外	4
2.3 難民条約上の理由	5
2.4 リスク	5
2.5 保護	7
2.6 国内移住	9
2.7 証明	9
国別情報	9
3. 法的権利	9
3.1 憲法	10
3.2 市民権および書類	10
4. 人口動態	11
4.1 パキスタンのハザラ族コミュニティ	11
5. 治安状況	13
5.1 クエッタ市外に居住するハザラ族	13
5.2 クエッタ市内に居住するハザラ族	15
5.3 攻撃および死傷者	17
5.4 攻撃の動機	19
5.5 道路安全	20
6. 国家の対応および処遇	21
6.1 安全および補償の提供	21
7. 社会の姿勢および処遇	24
7.1 コミュニティ関係	24
7.2 反ハザラ族・シア派感情	24
8. 社会経済的状況	25

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

8.1 教育の機会	25
8.2 雇用の機会	27
9. 保健福祉	28
附属書 A	29
パキスタン平和研究所との通信	29

調査範囲

文献目録

引用文献

参考文献

改版履歴

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

評価

更新日：2019年10月17日

1. 序

1.1 申請の根拠

1.1.1 庇護申請者がハザラ族であることによる、国家または非国家主体による迫害および／または重大な危害のおそれ。

1.2 留意点

1.2.1 ハザラ族は民族集団の1つであり、その大多数がシア派イスラム教徒である。ハザラ族は、東洋的な顔立ちと比較的色白な肌という特徴的な外見をしており、パキスタン国民の大半とは異なっている。

1.2.2 シア派イスラム教徒に関する情報については、「国別政策および情報ノート パキスタン：シア派イスラム教徒」を参照。

2. 問題の検討

2.1 信憑性

2.1.1 信憑性の評価に関する情報については、「信憑性および難民の地位の評価に関する庇護指針」を参照。

2.1.2 意思決定者は、以前に英國査証またはその他の形態の在留許可の申請があったか否かについても確認しなければならない。査証に一致する庇護申請は、庇護面接の前に調査しなければならない（「査証の一致、英國査証申請者からの庇護請求に関する庇護指針」を参照）。

2.1.3 意思決定者は、言語分析テストを実施する必要性についても検討すべきである（「言語分析に関する庇護指針」を参照）。

2.2 適用除外

2.2.1 意思決定者は、適用除外条項の1つ（またはそれ以上）が適用されるか否かについて検討しなければならない。各案件は、その個々の事実および実体について検討しなければならない。

2.2.2 庇護申請者が難民条約の適用除外となる場合、人道的保護の付与も除外される。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2.2.3 適用除外条項および制限付き在留許可に関する指針に関する詳細は、「適用除外に関する庇護指針：難民条約第1条Fに基づく適用除外」および「制限付き在留許可に関する庇護指針」を参照。

2.3 難民条約上の理由

2.3.1 庇護申請者の実際の人種もしくは宗教または帰せられた人種もしくは宗教。

2.3.2 条約上の理由を立証するだけでは、難民だと認定するには十分ではない。各事例において取り上げるべき問題は、その庇護申請者が実際の条約上の理由または有するとされる条約上の理由により迫害されるという十分に理由のある恐怖を有しているか否かである。

2.3.3 条約上の理由に関する指針の詳細は、「信憑性および難民の地位の評価に関する指針」を参照。

2.4 リスク

2.4.1 パキスタンに居住するハザラ族の人口は 60 万人から 100 万人と推計されており、その大多数はシア派イスラム教徒である。約 50 万人のハザラ族がバロチスタン州クエッタ市に居住しており、その多くはハザラタウンおよびマリアバード（マリ・アバード）に集中している。両地区は、高い壁および連邦政府の準軍事的部隊が警護する検問所により保護された居留地である。また、イスラマバード市、カラチ市、ラホール市、ラワルピンディー市等各地に居住するコミュニティが存在する。ハザラ族は、「モンゴル人的な」顔立ちから容易に識別することができる（人口動態を参照）。

a) 国家による処遇

2.4.2 憲法では、宗教の自由および少数派の保護が保証されており、ハザラ族に対する直接的に差別的な法律、公的政策または措置は存在しない。しかし、パキスタンの文脈においては、少数派という用語はハザラ族のような宗派、民族（ethnic）、言語および民族（national）的な少数派を含まない。ハザラ族は、国家データベース登録局（NADRA）の職員が、電子式身分証明書（CNICs）の発行を遅らせたり、拒否したりしていると報告しており、これにより教育の機会が制限される可能性がある。コミュニティの住民は、検問所において、ハザラ族に対し不必要的検問が実施されていると報告している。また、クエッタ市の居留地において、政府が基本的な施設を維持できていないとの報告がある（法的権利、市民権および書類、クエッタ市内に居住するハザラ族ならびに安全および補償の提供を参照）。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2.4.3 全般的に、ハザラ族は国家からの迫害または重大な危害のリスクにはさらされていない。差別が起きるとしても、その性質および反復性に鑑みて、迫害または重大な危害の実際のリスクに相当するほど十分に深刻な可能性は低い。

2.4.4 意思決定者は、庇護申請者を実際のリスクにさらすような、申請者に特有の特定の要素が存在するか否かについて検討しなければならない。各案件は、その事実に即して検討しなければならず、国家による実際のリスクにさらされていることを示す責任は庇護申請者にある。

2.4.5 リスクの評価に関する指針の詳細は、「信憑性および難民の地位の評価に関する庇護指針」を参照。

b) 非国家主体による処遇

2.4.6 ハザラ族は特徴的な外見をしており、国内に独自の地区および居留地があるため、ハザラ族は、シア派イスラム教徒を標的とする、宗派に基づく過激派組織の標的となっている。バロチスタン州では、2012年以降、宗派に基づくとみられる攻撃により、約540人のハザラ族が殺害されている（パキスタンにおけるハザラ族の総人口の約0.05%、バロチスタン州におけるハザラ族の人口の約0.1%である。人口動態を参照）。

2.4.7 そうした攻撃について犯行声明を出した実行犯には、ラシュカレ・ジャンヴィ（LeJ）、イスラム国およびタリバンが挙げられる（これらの組織に関する詳細は、「国別政策および情報ノート パキスタン：治安および人道状況（武装勢力への恐怖を含む）（Country Policy and Information Note on Pakistan: Security and humanitarian situation, including fear of militant groups）」を参照）。

2.4.8 攻撃の大半はバロチスタン州で発生している。ハザラ族は、クエッタ市内のハザラタウンおよびマリアバードの居留地の地区から出たときに襲撃をより受けやすくなる。バロチスタン州外で、最近ハザラ族に対する大規模で標的を絞った攻撃が行われたという報告はない（攻撃および死傷者、攻撃の動機ならびに道路安全を参照）。

2.4.9 情報によると、2018年はバロチスタン州における攻撃および死傷者の数が2017年と比べて若干減少したと述べている。2019年上半期は、標的を絞った攻撃によりハザラ族20人が殺害された。これには、2019年4月に保護下にあるハザラ族居留地外のハザルガンジ地区にあるクエッタ市の市場でハザラ族8人が殺害された爆弾攻撃が含まれる。ハザラ族の護衛を行っていた治安要員も攻撃の犠牲になっている（攻撃および死傷者ならびにクエッタ市内に居住するハザラ族を参照）。

2.4.10 ハザラ族は、その宗教のため、宗派に基づく攻撃を受けるリスクに直面しており、ハザラ族の特徴的な外見はそのリスクを増大させている。クエッタ市内のハザラ族居留地内および周

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

邊で講じられている治安対策のおかげで、攻撃を受けるリスクは減少しているが、これらの地域外を移動する場合、護衛されていてもそのリスクが増大する。しかし、治安上の事件数および死傷者数は、パキスタンに居住するハザラ族の人口と比較すれば少ない。クエッタ市およびバロチスタン州外に居住するハザラ族は、一般住民に混じって居住し、民族に基づく識別および攻撃のリスクを減らしている（治安状況を参照）。

2.4.11 意思決定者は、庇護申請者を非国家主体による実際の攻撃のリスクにさらすような、申請者に特有の特定の要素、例えばパキスタン国内の居住場所等が存在するか否かについて検討しなければならない。各案件は、その事実に即して検討しなければならず、非国家主体による実際のリスクにさらされていることを示す責任は庇護申請者にある。

2.4.12 リスクの評価に関する指針の詳細は、「信憑性および難民の地位の評価に関する指針」を参照。

c) 社会による処遇

2.4.13 日常生活において、ハザラ族を制限するような社会的差別はほとんど存在しないが、治安上の懸念から、クエッタ市内のハザラ族居留地 2 か所以外における移動の自由が制限されており、その結果、雇用、教育および医療の機会が制限されている。非ハザラ族の患者および学生に対するリスクを減らすため、ハザラ族がクエッタ市内において教育施設および医療施設または交通機関の利用を拒否されているという報告がある。ハザラ族は、居留地外を移動するときは、頭部を覆い隠して身元を隠そうとすることが多い。オーストラリア外務貿易省（DFAT）によると、差別の事案は社会の姿勢という大きな傾向の表れというよりは、個人的偏見の事例である可能性が高い（社会の姿勢および処遇、社会経済的状況、保健福祉および道路安全を参照）。

2.4.14 LeJ 等の組織は、公の場で遠慮なく反シーア派の集会、特にハザラ族のコミュニティに反対する集会を継続的に開催している。あるメディアソースは、クエッタ市内の壁には「大量の」反ハザラ族的な落書きがされ、バロチスタン州各地で反ハザラ族的なリーフレットが配布されたと報道した（反ハザラ族・シーア派感情を参照）。

2.4.15 全般的に、ハザラ族が直面している社会的差別の水準および性質は、迫害または重大な危害の実際のリスクには相当しない。各案件は、その事実に即して検討しなければならず、社会的アクターによる実際のリスクにさらされていることを示す責任は庇護申請者にある。

2.4.16 リスクの評価に関する指針の詳細は、「信憑性および難民の地位の評価に関する指針」を参照。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2.5 保護

2.5.1 庇護申請者が国家からの迫害に関する十分な根拠のある恐怖を有する場合、当局の保護を受けられる可能性は低い。

2.5.2 庇護申請者が「ならず者」の国家主体を含む非国家主体からの迫害に関する十分な根拠のある恐怖を有する場合、意思決定者は、国家が効果的な保護を提供できるか否かについて評価しなければならない。

2.5.3 政府は、一般国民および特にシーア派イスラム教徒を標的にするテロ組織の能力を抑制するための措置を講じてきた（「国別政策および情報ノート パキスタン：シーア派イスラム教徒」を参照）。

2.5.4 パキスタンの治安部隊は、ハザラ族、特にクエッタ市内に居住するハザラ族に対し、ハザラ族居留地周辺の検問所、ハザラタウンとマリアバード間の巡回ルートおよび居留地外における治安部隊員による随行等一定の保護を提供している。治安対策は 2018 年 5 月に強化され、2019 年 4 月の市場への攻撃を受けて、監視カメラの設置、攻撃の実行犯を一掃するための措置の強化ならびに犠牲者および家族への金銭的補償等さらなる措置を約束した（安全および補償の提供ならびにクエッタ市内に居住するハザラ族を参照）。

2.5.5 武装勢力による暴力を抑制することを目的としたパキスタン政府による治安作戦の詳細は、「国別政策および情報ノート パキスタン：治安および人道状況（武装勢力への恐怖を含む）」を参照。

2.5.6 2010 年 11 月 11 日に審理が開かれた AW（保護の十分性）パキスタン [2011 年] UKUT 31 (IAC) (2011 年 1 月 26 日) の判例記録では、「国家による保護が組織的に十分であるにもかかわらず、当局が、請求人の事例に特有の、恐怖を生じさせる事情を知っており、または知っているはずであるにもかかわらず、当該特有の事情が合理的に必要とするような追加の保護を提供する可能性が低い場合、請求人はなお迫害に関する十分な根拠のある恐怖を有する可能性がある」(パラグラフ 55 (vi) において英國上級審判所裁判官オールドによる) と判示した（頭注 2）。

2.5.7 意思決定者は（もある場合）過去の迫害も個別に考慮しなければならず、そのような迫害（および過去における十分な保護の欠如）が繰り返される可能性が高いと考える十分な理由があるか否かについて検討しなければならない (AW の頭注 3 を参照)。

2.5.8 一部のハザラ族は、市場への治安車両は不定期で、治安の全般的な改善はハザラ族コミュニティが講じた措置によるものだと主張している。一部の消息筋によると、治安部隊は攻撃の実行犯を逮捕できておらず、および／または非合法化されたテロ組織による反ハザラ族感情に肩入

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

れし、もしくは少なくとも無視していた（安全および補償の提供ならびに反ハザラ族・シア派感情を参照）。

2.5.9 全般的に、国はハザラ族に対し効果的な保護を提供する意思および能力があるものと考えられる。庇護申請者が保護を求めようとしない場合でも、必ずしも効果的な保護が得られないとは限らない。意思決定者は、各案件について、その事実に即して検討しなければならない。国による保護を要求および獲得できない理由を示す責任は庇護申請者にある。十分か否かを判断するときに適用すべき基準は、差別および暴力のリスクを排除するかどうかではない。

2.5.10 国による保護を得られるか否かについての評価に関する指針の詳細は、「信憑性および難民の地位の評価に関する庇護指針」を参照。また、「国別政策および情報ノート パキスタン：背景情報（保護当事者および国内移住を含む）（Country Policy and Information Note on Pakistan: Background information, including actors of protection and internal relocation）」も参照。

2.6 国内移住

2.6.1 庇護申請者が国家による迫害に関する十分な根拠のある恐怖を有する場合、そのリスクを逃るために移住を期待することが合理的である可能性は低い。

2.6.2 庇護申請者の有する恐怖が非国家主体による迫害または重大な危害に対するものである場合、一般的に、移住することでそのリスクを逃れることができる。

2.6.3 移動の自由は、特にクエッタ市内およびその周辺においては、治安上の懸念から制限されている（クエッタ市内に居住するハザラ族および道路安全を参照）。パキスタン各地に複数のハザラ族コミュニティが存在し（クエッタ市外に居住するハザラ族を参照）、パキスタンは広く、多様な国であり、移動の自由に対する全般的な障害はない（「国別政策および情報ノート パキスタン：背景情報（保護当事者および国内移住を含む）」を参照）。

2.6.4 しかし、全ての案件において、意思決定者は、個々の庇護申請者の個別の事情を十分に斟酌して、国内移住の関連性および合理性について慎重に検討しなければならない。

2.6.5 国内移住に関する指針の詳細は、「信憑性および難民の地位の評価に関する指針」を参照。

2.7 証明

2.7.1 請求が拒否される場合、それが 2002 年国籍、移民および庇護法第 94 条に基づく「明らかに根拠がない」ものと証明される可能性は低い。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

2.7.2 証明に関する指針の詳細は、2002年国籍、移民および庇護法第94条に基づく保護および人権請求の証明（明らかに根拠がない請求）を参照。

国別情報

第3節 更新日：2019年9月23日

3. 法的権利

3.1 憲法

3.1.1 パキスタン憲法第36条には、少数派の保護が規定されている。第28条には、「特有の言語、表記または文化を有するあらゆる一部の市民は、それを保護し促進する権利を有し、法律により、その目的のための機関を設立する権利を有する」と規定されている。フリーダム・ハウスは、報告書「世界における自由2016」のパキスタンに関する箇所において、「憲法による宗教の自由および少数派の保護の保証は、差別的な法令、社会的偏見および宗派に基づく暴力を効果的に抑制できていない」と指摘している。

3.1.2 マイノリティ・ライツ・グループ・インターナショナル（MRGI）による宗教または信仰の自由に関する日付不明の記事では、以下のように述べられている。

「パキスタン憲法では、『少数派』について複数回言及しているが、この用語については明確に定義されていないため、何が『少数派』なのかに関して曖昧さが残っている。しかし、パキスタンの文脈において、『少数派』とは、一般的に、具体的には宗教的少数派を指すものと理解されており、憲法で認められた少数派をヒンドゥー教徒、キリスト教徒、シーア教徒に限定している。このことは、イスラム教徒でありながら宗派的少数派であるシーア派や、憲法上明確には認められていない民族（ethnic）、言語および民族（national）的少数派等の『内部的少数派』に影響を及ぼしている。特に脆弱なのは、民族性および宗教的アイデンティティのため二重の差別に直面しているハザラ族のシーア派等の集団や、カーストに基づく差別に直面している集団である。これらの集団はいずれも、一般的にパキスタンで受け入れられている『少数派』の定義に当てはまらない」

3.2 市民権および書類

3.2.1 オーストラリア政府の外務貿易省は、2019年2月の「国別情報報告書（DFAT報告書）」において、同省の現地での知識、パキスタンの幅広い消息筋との議論および公開情報を踏まえて、以下のように指摘している。「パキスタンで生まれたハザラ族の子どもには、パキスタンの市民権を取得する権利がある。アフガニスタン出身のハザラ族は、通常、市民権は与えられない

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

が、入国カードを入手することができ、それにより運転免許証の取得等一部の権利が受けられる」

3.2.2 同報告書はまた、以下のように指摘している。

「ハザラ族は、モバイル SIM カードおよびインターネット接続を含め、居留地内でのサービスの利用には、旅券、CNIC〔電子式身分証明書〕等の正式な書類は必要ないと主張している。しかし、居留地内外または居留地間の移動には書類の確認が必要であり、これによりサービスを利用できなくなる可能性がある。パキスタンのハザラ族の大半は、CNIC 等の正式な身分証明書を取得できるが、ハザラ族は、国家データベース登録局（NADRA）の職員が時折ハザラ族による正式な書類の申請を遅らせることがあると主張している。旅券および CNIC を取得しようとする際に居留地外にあるクエッタ市内の NADRA の事務所の外で攻撃され、死亡したハザラ族もいた。その結果、書類申請のために居留地から出ることを安全でないと考えるハザラ族は多い」

3.2.3 さらに、DFAT は以下のように指摘している。「(中略) 国内移住を試みたハザラ族が、NADRA 職員から CNIC の変更を拒否され、その結果、居住地での取得を義務付けられている旅券の申請ができなかったとの報告を（同省で）把握している。有力な擁護者がいるハザラ族は、そのような職員による障害を乗り越えることができる。入学手続きも現地に居住していることが要件とされているため、NADRA が CNIC の住所変更を拒否することにより、教育を受ける機会も制限される可能性がある」（教育の機会も参照）。

第 4 節 更新日：2019 年 9 月 23 日

4. 人口動態

4.1 パキスタンのハザラ族コミュニティ

4.1.1 パキスタンの人口は、2018 年 7 月現在 2 億 800 万人近くであると推計されており、うち約 96% がイスラム教徒である。逊ニ派がイスラム教徒人口の約 70%～85% を占め、シア派は 15%～20% である。報道によると、2014 年 1 月、パキスタンにおけるハザラ族の長であるサイド・メフディ・ハッサン・ムーサ（Syed Mehdi Hassan Moosa）は、ハザラ族の人口は 100 万人であり、その大多数がカラチ市およびクエッタ市に居住していると述べた。ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）による 2014 年 6 月 30 日付の報告書によると、「小規模なハザラ族シア派コミュニティが南西部バロチスタン州に集住し、大半が州都クエッタ市に居住している。人口は約 50 万人と推計されている」。パキスタンの国家人権委員会（NCHR）はバロチスタン州のアラムダル・ロード（Alamdar Road）およびハザラタウン地区（人口の大部分がハザラ族の地区）でハザラ族に関する小規模な調査を行い、2018 年にバロチスタン州のハザラ族の人口は約 40 万人か

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ら 50 万人であると報告した。2019 年 2 月、DFAT は、パキスタン全体のハザラ族の人口は 60 万人から 100 万人未満の間であると推計されると指摘した（クエッタ市外に居住するハザラ族およびクエッタ市内に居住するハザラ族を参照）。

4.1.2 民族的なハザラ族の圧倒的多数はシーア派イスラム教徒であり、大半が 12 イマーム派であるが、少数の逊ニ派もいる。

4.1.3 米国国際宗教自由委員会（USCIRF）による 2019 年年次報告書は、2018 年の状況について以下のように指摘している。

「パキスタンにおけるその他の民族集団にもシーア派イスラム教徒がいるが、ハザラ族は特徴的な外見をしており、国内各地に独自の地区および居留地を設置している。これら 2 つの要素により、ハザラ族は、シーア派イスラム教徒を標的とする、宗派に基づく過激派組織の主要な標的となっている。2013 年以降、クエッタ市等におけるハザラ族地区に対して政府が追加的な治安対策を講じているが、暴力的な宗派集団はこうした地区に対する大規模な攻撃を実施してきた」（クエッタ市内に居住するハザラ族を参照）

4.1.4 欧州庇護支援事務所（EASO）による 2015 年 8 月付のパキスタンに関する報告書で言及されているように、「農村部に居住する者は、ペルシア語（ファルシ語）の東部方言であるハザラギ語を話すが、パキスタンの都市部に居住する多くのハザラ族は、標準ペルシア語、ウルドゥー語、英語等その他の言語も話す」

4.1.5 2013 年 5 月付の BBC ニュースによる報道では、ハザラ族は「民族的にはモンゴル人であり、東洋的な顔立ちと色白な肌をしており、パキスタン国民の大半とは異なっている」と指摘されている。ワールドアトラスは、ハザラ族の説明において、以下のように述べている。「研究者はハザラ族の起源について完全にさかのぼることはできないが、その容姿から、テュルク系民族およびモンゴル人と密接な関係があったのではないかと考えられている。ハザラ族の顔面骨、文化、言語的類似性や全体的な外見は、中央アジアのトルコ系民族およびモンゴル人のものと非常に類似している」

4.1.6 EASO は以下のように報告している。

「歴史的に、ハザラ族はアフガニスタン中部からパキスタンに移住してきた。クエッタ市における一部のハザラ族の家系は 19 世紀後半にさかのぼることができるが、コミュニティの大多数は 2 回に分けて移住してきた。第一波はソ連がアフガニスタンを占領している間の 1979 年以降、第二波はアフガニスタンのタリバン政権がハザラ族を標的にし始めた 1996 年である。現地にある既存のネットワークのおかげで、アフガニスタンのハザラ族は難民キャンプに滞在することなく、パキスタン社会によりうまく溶け込むことができた」

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

4.1.7 バロチスタン州におけるハザラ族コミュニティは、ハザラ民主党 (Hazara Democratic Party (HDP)) が代表しており、同党は州議会に 2 議席を有している。テフリー・スバ・ハザラ (Tehreek-e-Suba Hazara) はパキスタン選挙委員会 (ECP) に登録された政党であるが、バロチスタン州議会に議席は有していない。

マジュリス・ワフダーテ・ムスリミーン (Majlis Wahdat-e-Muslimeen (MWM)) はシーア派コミュニティを代表し、バロチスタン州議会で複数の議席を有している。

第 5 節 更新日：2019 年 9 月 23 日

5. 治安状況

5.1 クエッタ市外に居住するハザラ族

5.1.1 クエッタ市外および／またはバロチスタン州外に居住するハザラ族の人口の推計はばらつきが大きい。

5.1.2 非政府組織であるパキスタン人権委員会 (HRCP) は、2015 年の年次報告書において、以下のように述べている。「メディアの報道からは、宗派的少数派、特にバロチスタン州内のハザラ族コミュニティに属する一部の家族が、より安全だと考えるパキスタンの大都市に移住する動きが続いていることが示唆される」。クエッタ市からイスラマバード市に移住したハザラ族の男性は、2014 年、ドーン紙に対し、「イスラマバードはクエッタと比べて非常にお金がかかる」とし、「貧しい人々は、ラワルピンディーやイスラマバードといった大都市で家を借りることはできない」と語った。男性はまた、クエッタ市に居住するさらに「数千人」のハザラ族が移住を希望しているが、貧困のために実現できないと語った。

5.1.3 2014 年 3 月に英字紙ドーンに掲載された記事によると、「60 万人のハザラ族コミュニティの住民のうち、10 万人が故郷 [クエッタ市] を離れた (中略)。約 8 万人がクエッタ市からイスラマバード市、ラワルピンディー市、ラホール市、カラチ市に移住した」。HRCP の副会長は、2014 年 4 月、エクスプレス・トリビューン紙に対し、暴力の高まりを受けて、過去 5 年間で 3 万人のハザラ族がバロチスタン州を離れ、国内の他の地域に移住したと語った。2017 年の状況に関する報告書において、HRCP は「(中略) コミュニティの長老によると、7 万人のハザラ族がクエッタ市から退去した」と報告している。

5.1.4 日付不明のインターネット・ブログ「カラチのハザラ族 (Hazaras in Karachi)」によると、「カラチには、ハザラ族コミュニティ住民 1 万 3 千人以上が居住している。(中略) カラチに居住するハザラ族は、カラチの総人口に占める人数は少ないが、カラチ都市圏に居住する他の何十

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

もの民族の中でも独自かつ独特な自らのアイデンティティ、言語、信仰および文化をなんとか維持してきた」

5.1.5 パキスタンの英字紙ザ・ニュース・インターナショナルは、2015年5月、カラチ市におけるハザラ族について報じ、「フサイン・ハザーラ・ゴートおよびムガル・ハザーラ・ゴートの両地区は、ハザラ族が居住している大規模な地区であるが、コミュニティの一部の集団は、DHAギズリ、パク・コロニーおよびマンゴピル地区にも居住している」と指摘した。

同紙は、「カラチ市は広大であり、外国の文化もあることから、ハザラ族コミュニティに一定の安心感を与えていた」と付け加えた。

5.1.6 英国内務省国別政策・情報チーム（CPIT）との2016年5月5日付の通信において、パキスタン平和研究所（PIPS）の職員は以下のように述べた。

「パキスタンにおけるハザラ族の人口分布を追跡することは（中略）困難です。クエッタ市における宗派に基づく殺害事件後、多くの家族が国内各地、特にすでに相当数のハザラ族住民がいるカラチに移住したためです。カラチ市には、2万5千世帯が居住していると推計されています。ハザラ族は、同市のフサイン・ハザーラ・ゴートおよびムガル・ハザーラ・ゴート地区に居住しています。イスラマバード市でお金のかかる生活を送る余裕のある人々は首都に移住しましたが、その数は多くありません。報道によると、数世帯がラホール市に移住し、シア派住民の中に混ざって暮らしているとのことです」

5.1.7 NCHRによる2018年の報告書は、以下のように指摘している。「ハザラ族の人々は、パラチナル、カラチ、サンガル、ナワブシャー、ハイデラバード、パンジャーブ州およびギルギット・バルチスタン州各地を含む国内各地に居住している」。同報告書はまた、クエッタ市において直面した暴力のため、一部のハザラ族、特に若年層は、パンジャーブ州またはイスラマバード市への移住を希望していると指摘した。同報告書はさらに、クエッタ市の他に、バロチスタン州内でハザラ族が居住する地域としてサンジャビ、マック（Much）、ゾブ、ハーナイ（Harnai）、ロラライ、ドゥキ（Dukki）を挙げている（クエッタ市内に居住するハザラ族も参照）。

5.1.8 2019年2月のDFAT報告書は以下のように指摘している。「バロチスタン州外では、カラチ市等の主要な都心部に、相対的に見れば少ないものの多数のハザラ族が居住している。クエッタ市外の都心部に居住するハザラ族は、民族に基づく識別、差別および攻撃のリスクを減らすため、ハザラ族居留地には居住しない傾向がある」。

5.1.9 同報告書は以下のように報告している。

「クエッタ市を離れる経済的余裕があるハザラ族は、そのようにしている。バロチスタン州外に居住するハザラ族は、識別および標的の対象になりやすい他のハザラ族の近所に移住して暮らす

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

よりも、普通のコミュニティの中で個別に暮らす方が安全だということがわかったと報告している。ハザラ族が国内移住先として希望する場所は、第一にラホール市、次いでカラチ市、イスラマバード市の順であった。ハザラ族の報告によれば、カラチ市内のマンゴビル等の数少ないハザラ族居留地は安全ではなく、困窮したハザラ族同士で資金を出し合って暮らすような必要がない限り、選択肢に入らない」

「カラチ市等の民族的に多様な場所で暮らす場合には安心感は増すが、ハザラ族は依然として、社会的差別および治安上の脅威に直面している。軍に所属する一部のハザラ族は、移動経路および時間を毎日変える、車両を変える、軍の車両を使わないなど、なるべく目立たないための対策を講じている」

社会の姿勢および処遇および道路安全も参照。

5.2 クエッタ市内に居住するハザラ族

5.2.1 EASO による 2015 年 8 月付の報告書は、以下のように指摘している。

「クエッタ市内において、ハザラ族の圧倒的多数は独自の 2 つのコミュニティに居住している。すなわち、ハザラタウン（ブルワリー・ロード（Brewery Road）とも）、およびアラムダル・ロードに沿ってメフラバード（Mehrabad）〔マリアバードまたはマリ・アバードとも〕にかけての地区である。これらは、クエッタ市郊外の低中所得層地区である。同地区内で、ハザラ族はコミュニティ内で一般に提供されている医療・教育施設を利用できる。（中略）クエッタ市内のハザラ族は、現地コミュニティに溶け込み、他の民族集団と共に働いている。多くがバロチスタン州の公務員、バロチスタン州警察または民間企業で雇用されている」

5.2.2 2019 年 2 月付の DFAT 報告書によると、ハザラタウンはクエッタ市西部、野営地およびベナジール病院の近くに所在し、マリアバードは同市東部、パキスタン空軍基地の近くに所在している。DFAT は、「ハザラ族の大半は、バロチスタン州内の治安状況を理由にクエッタ市内のハザラ族居留地に居住している。DFAT は、クエッタ市外に居住する、バロチスタン州に拠点を置くハザラ族に関して詳細に報告することはできないが、クエッタ市外の全般的な治安状況はクエッタ市内に比べて深刻である」と付け加えた。アジア太平洋地域の時事問題雑誌であるディプロマット誌は、2019 年 4 月 16 日、ハザラタウンおよびマリアバードの 2 地区間、11.2 キロメートルがスピニ・ロード（Spini Road）で結ばれたと報じた。

5.2.3 ハザラタウンおよびマリアバードは、いずれも高い壁および連邦政府の準軍事的部隊が警護する検問所により保護されている。ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）は、2014 年 6 月付の報告書でこれについて「ゲットー化」と呼び、「安全な移動経路、買い物のための外出、通学、通勤は一切ない」と付け加えた。HRCP は、2015 年の年次報告書で、「安全を求めて、長年

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

にわたりクエッタ市内の多くのハザラ族が自らのコミュニティ専用の居留地に移住してきている」と報告した。

5.2.4 パキスタン・トゥデイによる 2015 年 6 月付の記事によると、ハザラ族の運営する商店 300 軒が、2 つの主要な居留地外、「主要市街地」に所在している。しかし、報道によると、ハザラ族は簡単に見分けが付くため、クエッタ市周辺を移動することを警戒している。ハザラ族に関する調査中、あるハザラ族学生は NCHR に対し、「ハザラ族は、命を危険にさらすことなくクエッタ市全域を移動することができない」と述べた。

2019 年 8 月、インディペンデント紙は、クエッタ市の卸売市場で営業していた多くのハザラ族の商店が閉鎖され、居留地に移動したと報じた。しかし、同報道は、「一部の者は仕事を求めて危険なクエッタ市内に現在も出ており、商店を継続している者もいる」と付け加えた。

5.2.5 米国国務省による「2018 年国別人権報告書（USSD 人権報告書）」は、以下のように指摘している。「新聞報道およびその他の消息筋によると、ハザラ族はクエッタの 2 か所のハザラ族居留地から自由に外へ出ることができなかつた。コミュニティの住人らは、治安対策の強化によって地区がゲット一化し、経済的搾取が生じていると不満を漏らした。これらの居留地内では消費財は高い値段でしか入手できず、またハザラ族の人々が『就職できず、高等教育を受けることもできない』と報告した」（社会経済的状況も参照）。

5.2.6 DFAT 報告書は以下のように指摘している。

「ハザラ族の報告によると、クエッタ市内の治安状況は極めて制限的で、攻撃を受ける可能性が非常に高くなっているため、ハザラ族は、食料、教育、医療、雇用等の基本的サービスを受けるために市内 2 か所のハザラ族居留地から外に出たり、これら居留地間を移動したりすることをためらっている。このため、ハザラ族は居留地の壁の中でしかサービスを受けることができない。コミュニティの代表の主張によれば、政府は既存の基本的施設の保守を行わず、その運営は居留地に居住するハザラ族の職員に任せられている。ハザラ族コミュニティはまた、少数のハザラ族の業者に依存しており、業者は自ら危険を冒して、ハザラ族居留地に限られた食品を持ち込んでいる」

5.2.7 HCRP は、2018 年の年次報告書において以下のように指摘している。「実質的なゲット一化に追い込まれ、コミュニティの移動の自由は深刻に制限され、多くの人々が、ときには違法な手段によって国外に移住している」。同報告書はまた、以下のように付け加えている。

「ハザラタウンの中心部でレストランを開いているハザラ族の女性は、窮状を以下のように語った。『私たちは現在、非常に悲しい苦境にあります。多くの家庭には、男性の稼ぎ手が残っていません。殺されたか、クエッタを離れました。子どもの教育が最も重要であり、児童労働が軽蔑

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

されているようなコミュニティにおいて、多くの子どもたちが退学し、レストランでウェイターとして働いたり、医療用品店や靴屋等で使い走りをしたりして家族を支えているのです』

5.2.8 NCHR の報告書によると、

「クエッタ市における治安状況を受けて、ハザラ族コミュニティ内の脅威認識は相当なレベルに達したため、一部のコミュニティの住民によると、ハザラ族はコミュニティ外の移動や取引に際して常に身元を隠そうとしている。ハザラ族の回答者は、自分たちの地区の外に出るときは、頭部を覆って身元を隠さなければいけないと説明した。バイクを運転する場合は常に、交通安全上の理由ではなく、身元を隠すためにヘルメットをかぶっている。

独特な顔の特徴、すなわちほお骨、アジア人的な目、鼻立ち、言語からハザラ族を容易に識別することができる。ハザラ族は礼拝が他の宗派と異なり、これにより身元が明らかになってしまうため、公の場では礼拝ができないと述べた。回答者は、尋ねられたときには自らをウズベク族であるとし、シア派・ハザラ族的なアイデンティティを隠すため、名前に含まれる単語を省略することもあると述べた。回答者はさらに、ハザラ族はきれい好きとして知られるが、状況が状況なだけに、身元を隠して攻撃を避けるため、市内を移動するときは意図的に車両を汚れた状態にしておくと付け加えた」

国家の対応および処遇-安全および補償の提供も参照。

5.3 攻撃および死傷者

5.3.1 NCHR による 2018 年 2 月付の報告書で言及されているバロチスタン州内務省の情報は、以下のとおり指摘している。

「2012 年 1 月から現在までに、宗派に基づく暴力の個別の事件により、ハザラ族コミュニティ出身者 509 人が殺害され、627 人が負傷した。これらの事件は、ほとんどがクエッタ県で発生している。現在の国内、特にバロチスタン州におけるテロの頻発に関して、連邦政府および州政府は、一般人、公共の財産および機微な施設の安心および安全を確保するための措置を講じてきた。治安上の脅威、特にテロ活動については、ほとんどがアフガニスタンにおける状況と関連しており、テロリストを含むアフガニスタン国籍者が、州内の 8 県に沿って 1,200 キロメートルに及ぶ長く侵入しやすい国境を通じてバロチスタンに流入している」

5.3.2 NCHR はまた、「ハザラ族は 1999 年以降、自爆テロおよび対象を定めた殺人事件において一貫してテロリストおよび宗教的狂信者の標的とされ、報道によると、過去 14 年間に 2 千人以上が殺害された」と述べた。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

5.3.3 シンクタンクの安全保障調査研究センター（CRSS）によると、2013 年から 2018 年までの間に、289 人のシア派ハザラ族が宗派に基づく暴力により殺害された。

5.3.4 南アジア・テロリズム・ポータル（SATP）によると、2018 年のハザラ族に対する攻撃は、2017 年と比べて減少している。2017 年には 3 件の攻撃で少なくとも 11 人が死亡し、2018 年は 2 件の攻撃で 4 人（ハザラ族を保護するために配置された警察官 2 人も含む）が死亡した。パキスタン平和研究所（PIPS）も、2018 年は 2017 年と比べて攻撃が減少したとしており、2017 年の出来事に関する安全保障報告書において、ハザラ族に対する 7 件の攻撃で 17 人が死亡したと報告した。

2018 年の報告書では、PIPS は同年 3 月および 4 月に発生した 6 件の宗派に基づく攻撃により、ハザラ族 7 人および警察官 1 人の死亡を含む 8 人が死亡したと報告した。

5.3.5 2018 年の HRCP による報告書では、ハザラ民主党の地域代表によると、実際の死傷者数は内務省が示す数よりもはるかに多いことを指摘している。同報告書は、以下のように付け加えている。

「1 か月という短いスパンで 4 件の個別の襲撃事件が発生し、ハザラ族男性 6 人が銃殺され、1 人が負傷した。2 人はクエッタ市のウェスタン・バイパス地区で殺害された。4 月 18 日に商店経営者 1 人が銃殺され、同月初めには別のハザラ族男性 1 人も殺害されている。4 月 28 日には、4 件目となる対象を定めた攻撃により、ハザラ族男性 2 人が殺害された。3 月 4 日、ハザラ族コミュニティの住民が、クエッタ市内で対象を定めた殺人事件で銃殺され、3 月 8 日にはハザラ族を警護していた警察官 1 人がクエッタ市内で銃殺され、もう 1 人が負傷した」

5.3.6 PIPS によると、ラシュカレ・ジャンヴィ（LeJ）が上記の攻撃の実行犯とされる。SATP が指摘するように、LeJ はパキスタンでは非合法化された組織であり、同組織の目的は「主に暴力的な手段を通じて、パキスタンを逊ニ派国家に改造する」ことである。2018 年の状況について述べている米国国際宗教自由委員会（USCIRF）の 2019 年年次報告書によると、イスラム国、LeJ およびパキスタン・タリバン運動（TTP）がハザラ族を標的にした（反ハザラ族・シア派感情も参照）。

5.3.7 CRSS は、2019 年第 2 四半期の報告書で、2018 年 1 月から 2019 年 6 月末までの間にハザラ族 20 人が宗派に基づく暴力により殺害され、うち 12 人が 2019 年第 2 四半期に殺害されたと報告した。SATP は、2019 年の最初の 8 か月で、4 月 12 日、6 月 7 日および 8 月 6 日の 3 回の攻撃により、ハザラ族 11 人が死亡したと報告した。

5.3.8 SATP がメディアソースから引用したところによると、2019 年 4 月 12 日、クエッタ市ハザルガンジの野菜市場〔ハザラ族居留地外〕が簡易爆発装置（IED）による攻撃の標的となり、

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

少なくとも 16 人が死亡、うち 8 人がハザラ族であった。アブドゥル・ラッザク・チーマ州警察副長官 (DIG) (Deputy Inspector General (DIG) Abdul Razzaq Cheema) によると、爆発はハザラ族コミュニティを標的にしたものであり、少なくともハザラ族 9 人が死亡した。しかし、ジアウラー・ランゴブ州内務大臣 (Home Minister Ziaullah Langove) は、特定のコミュニティを標的としたものではないと考えると述べた。イスラム国が攻撃の犯行声明を出したが、ドーン紙の報道によると、「タリバンの無名の派閥が爆発の犯行声明を出し、ラシュカレ・ジャンヴィ (LeJ) と協力したと述べた」

5.3.9 また、SATP は、ジアラット県を訪問中のクエッタ出身ハザラ族 2 人が死亡した、車両を標的とした 2019 年 6 月 7 日の爆発、およびハザラ族 1 人が死亡し、13 人が負傷（うちほとんどがハザラ族）した、2019 年 8 月 6 日のクエッタ市ミッション・ロード (Mission Road) 沿いの靴屋店外に設置された IED による爆発について報告した。ドーン紙の報道によると、ミッション・ロード沿いのほとんどの商店はハザラ族が経営していた。

5.3.10 DFAT 報告書は以下のように指摘している。

「コミュニティによる治安対策が向上し、パキスタンの全般的な治安状況が改善されたことにより攻撃の成功は着実に減少したが、話を聞いた当局および民間人の多くは、クエッタ市のハザラ族は依然として、重大な暴力のリスクに直面していると報告した。現地メディアは、治安上の脅威および政府による制限によって、ハザラ族はバロチスタン州内におけるハザラ族の治安状況について正確に報告できなくなっていると主張している」

5.3.11 ハザラ平和平等機構 (Hazara Organization for Peace and Equality (HOPE)) は、Google マップ上で、国内各地におけるハザラ族に対する攻撃を記録している。

安全および補償の提供も参照。

5.4 攻撃の動機

5.4.1 HRCP による 2018 年の年次報告書は、「バロチスタン州における宗派に基づくテロの標的は、ハザラ族コミュニティに偏っている」と指摘した。しかし、NCHR による調査への回答者によると、「ハザラ族コミュニティの住民のほとんどは、自らが受けている迫害は単に宗派に基づくものではないという見解である。彼らは、バロチスタン州のデラ・ムラド・ジャマリおよびジャファラバードで他のシア派の集団が平和に暮らしていることを説明し、これらの殺人事件がハザラ族のみを標的にしていることから、シア派に対する宗教的動機によるものではないという見解に説得力を持たせている」。

5.4.2 さらに、NCHR による報告書は以下のように指摘している。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

「ハザラ族コミュニティの住民によると、迫害を受けている理由の一つは、彼らが享受している社会経済的繁栄に結びつけることができる。彼らは、ハザラ族が商店、市場、商業ビルおよび商店街を市内中心部に建設し、またパロチスタン州において、経済、貿易、教育、スポーツ等、生活のあらゆる分野で他の先住するコミュニティと比較して躍進してきたことを説明した。そのため、土地マフィアがハザラ族の殺害、ビジネスの廃業および一等地の放棄の強要やクエッタから国内の他地域への移住に関与している可能性がある。

しかし、非ハザラ族の回答者には、クエッタ市内におけるハザラ族の殺害に土地マフィアが関与していることを指摘する者はいなかった」

「ハザラ族コミュニティの回答者的一部はまた、ハザラ族コミュニティの一部の人々が自らのコミュニティの殺人事件に関与している可能性について示唆した。さらに、一部の非ハザラ族の回答者もこの見解を支持した。しかしそうした主張を裏付ける、信頼できる情報または証拠は提示されなかった」

5.4.3 NCHR による報告書は、「しかし、ハザラ族コミュニティの回答者の中には、自らが受けている迫害は宗派的問題であると述べた者もいた。彼らは、ハザラ族がシア派に帰属しているため、シア派国家であることを公言する現在のイランと結びつけられる、との見解を持っている」と付け加えた。

5.4.4 パロチスタン州内務・民族問題省 (Home and Tribal affairs department of Balochistan) は、NCHR に対して以下のように語った。

「(中略) アフガニスタンから浸透しているテロリストが、ハザラ族の殺害に関与している。連邦政府および州政府が宗派的問題を統制する措置を講じてきたことから、2014 年以降、前年と比べて、ハザラ族を標的とした殺人事件の件数は減少している。また、クエッタ市を管轄するナジャム・ウス・サキーブ (Najam-Us-Saqib) 県警察長官 (District Superintendent Police (DSP))」も NCHR に対し、ハザラ族の殺害に関与したテロリストはアフガニスタン出身であると語った。同長官はさらに、これらのテロリストは、その目的のために現地の人々を雇っていると述べた。同長官によると、ハザラ族に対する暴力は、最小限に抑えられている」

5.4.5 NCHR による報告書は、ウスマン・カカル (Usman Kakar) 上院議員によると、「クエッタ市 [内では、] ハザラ族だけが標的となっているわけではなく、パローチー族、パシュトゥーン族およびその他のコミュニティも安全ではない。こうした見解は、一部のハザラ族の代表からも支持を受けている。彼らは、自らのアイデンティティに悪影響を与える移住ではなく、暴力からの解放に向けて協力して取り組むことを重視すべきだと考えている」と指摘している。

5.5 道路安全

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

5.5.1 DFAT 報告書は、以下のように指摘している。

「現地消息筋は、クエッタ空港から市内に通じる道路およびダブル・ロード (Double Road) は、民族に関係なく全ての通行者にとって危険だと考えている。ハザラ族コミュニティを含む現地消息筋は、ジャイアント・ロード (Giant Road) は、ハザラ族および辺境警備隊の双方にとって危険だと考えている。武装勢力は、イランおよびイラクへの巡礼中、バロチスタン州を通る道路でシア派巡礼者を標的にしてきた。ハザラ族のシア派は外見に特徴があるため標的になりやすい。現地消息筋は、巡礼中のシア派に対する政府の治安対策は、(中略) 非ハザラ族のシア派の方が利用しやすく、政府はハザラ族に対しては 2 か月に 1 度しか護衛をつけないと主張している」

5.5.2 ハザラ族コミュニティは、NCHR に対し、治療のためにカラチ市に移動することはあまりに危険なため、選択肢に入らないと語った。NCHR は、2017 年 7 月に発生した、クエッタ市からカラチ市への移動中に殺害されたハザラ族の家族に対する襲撃について取り上げている。

5.5.3 交通機関の利用について、DFAT 報告書は以下のように指摘している。

「ハザラ族は頻繁に襲撃を受けており、例えば、2016 年 10 月 4 日には、銃を所持した男がクエッタ市内でバスを襲い、少なくともハザラ族女性 4 人を殺害した。こうした襲撃の頻発により、クエッタ市内の教育施設および医療施設の多くは、ハザラ族以外の患者および学生を保護するために、ハザラ族による交通機関の利用または立ち入りを拒否した。ハザラ族居留地外にある総合大学に通うハザラ族の多くは、交通機関に対する攻撃を機に恐怖が高まったことにより、バスを乗車しなくなっている」

第 6 節 更新日：2019 年 9 月 23 日

6. 国家の対応および処遇

6.1 安全および補償の提供

6.1.1 NCHR による 2018 年の報告書は、以下のように指摘している。

「バロチスタン州内務省によると、ハザラ族コミュニティの安全のための特別措置が確保されており、その内容は以下のとおりである。

(1) FC [辺境警備隊] の 19 個小隊の隊員が、マリ・アバードおよびハザラタウンに居住するハザラ族コミュニティの安全のために展開されている。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

(2) ハザラ族コミュニティが居住する地域の出入り口となる地点に常設の検問所が設置されている。

(3) 常駐する FC／警察が、ハザラ族がスピニ・ロードを通じてハザラタウンおよびマリ・アバード間を移動するために頻繁に利用する経路を巡回している。

(4) クエッタおよびタフタン間を移動するシア派ザイリーン (Zaireen) の安全な移動のため、FC 隊員 410 人、警察官 310 人、部族警察隊員 393 人が常駐し、車両 126 台、ジャミング装置 16 台、部族警察の APC (装甲兵員輸送車) 7 台が常設されている。

(5) 物品／サービスを購入するために市場に向かうハザラ族商店主を、常駐の FC／警察が護送している」

6.1.2 HRCP による 2017 年の報告書は、2017 年 10 月に発生した、野菜市場に向かうパンへの襲撃について取り上げている。同報告書によると、「警察は野菜市場との間を往復するハザラ族コミュニティを守るために特別な護送車両を組んだと主張したが、殺害された 5 人は護送車両で移動していなかった。ハザラ族コミュニティの指導者は異議を唱え、野菜は毎日のように購入しなければならないが、護送車両による保護は定期的ではないと主張した」。

6.1.3 ハザラ族コミュニティは、NCHR に対し以下のように語った。

「(中略) 国は、権利の保護を確保する責任を忘れてしまっているようである。ハザラ族コミュニティは、国に対し、彼らの懸念、すなわち迫害からの保護に取り組むために相当な措置を講ずるよう求めてきた。ハザラ族コミュニティは、国家行動計画 (National Action Plan) が開始されたにもかかわらず、彼らの状況に対する国の対応は不十分であり、彼らを保護できていないと不満を述べた。ハザラ族は、実行犯は全く裁判にかけられず、一次報告書 (FIRs) は常に不明人物に対して提起されていることから、国の役割は差別的であるという見解である。コミュニティはまた、州政府が彼らの保護のために講じた措置についても疑義を呈した。保護する代わりに、LEAs [法執行機関] は様々な検問所においてハザラ族自身に対して不必要的搜査および検査を実施することが多い」

6.1.4 HRCP は、2018 年の報告書で、同年におけるハザラ族への襲撃の後、「当局がハザラ族を守ることができなかつたため、クエッタ市内で抗議活動が勃発し、ジャリラ・ハイデル (Jalila Haider) 主導による 5 日間にわたる座り込みが行われた。座り込みは、陸軍参謀長が抗議参加者と面会したことで収束した。5 月には、CJP [パキスタン最高裁判所長官] が職権によりこれらの事件について取り上げ、州当局および国家当局に対し 10 日以内に報告書を提出するように指示した」と指摘した。USCIRF の 2019 年年次報告書で指摘されているように、「2018 年 5 月に行われた特別公判中、パキスタン最高裁判所長官は、バロチスタン州におけるハザラ族シア派イ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

スラム教徒に対する襲撃は、一世代全体を根絶やしにすることに等しく、国は『ハザラ族コミュニティの生命と財産を保護』しなければならないと述べた』

6.1.5 米国国務省による「信仰の自由に関する国際報告書（2018年版）」によると、「[2018年] 5月、バジュワ陸軍参謀長が抗議活動の指導者と面会し、その後、宗教的少数派を襲撃から保護するため、クエッタ市内で警察が追加的な治安対策を講じた。暴力は落ち着いたが、一部のクエッタ市のハザラ族コミュニティの住民は、治安対策の強化によって、地区が孤立したゲットーになったと不満を述べた」

6.1.6 上院議員のムシャヒド・フサイン・サイド議会中パ経済回廊（CPEC）委員会委員長（Senator Mushahid Hussain Syed Chairman Parliamentary Committee on China-Pakistan Economic Corridor（CPEC））は、NCHRに対し、短い声明の中で、ハザラ族の殺害に関して、「ハザラ族コミュニティの民族浄化であり、われわれはハザラ族を守ることができなかった」と述べた。

6.1.7 NCHRの報告書によれば、ハザラ族コミュニティの回答者は、政府が家族の死について補償していないと批判している。死亡した家族には、家族内で唯一の稼ぎ手も含まれていた。NCHRは、「彼らは感情的、心理的および金銭的な問題に直面している。ハザラ族は、政府は問題についてリップサービスをするのみで、見舞いや社会復帰のための実質的な措置を一切講じていないと述べた」と指摘した。

6.1.8 2018年5月31日、独立系非営利マルチメディア組織であるパブリック・ラジオ・インターナショナル（PRI）は、以下のように指摘した。

「治安向上の名目でハザラ族地区が封鎖されたが、襲撃を止めるに至っていない。ハザラ族に対する犯罪は近年増加しており、事件のほとんどは未捜査のままである。ハザラ族を標的とした殺人が裁判所または警察により追及されることはほとんどない。報復のおそれがあるために、被害者も地元当局も同様に、最初の事件報告書が提出される際に容疑者を名指ししないことが多い。近年、ハザラ族を保護するために配置された警察および辺境警備隊の隊員も武装集団により殺害されている」

6.1.9 DFATは、2019年2月付の報告書で、以下のように指摘している。「準軍事的な辺境警備隊は、（中略）クエッタ市のハザラタウンに通じる道路の検問所を管理し、出入りする人々に対し検査を行っている。複数の消息筋によると、辺境警備隊は、検問所でハザラ族を日常的に差別し、嫌がらせを行っているとされている」

6.1.10 DFATは以下のように指摘している。「現地消息筋によれば、クエッタ市のハザラタウンおよびマリアバードを含め、ハザラ族に対する治安状況の改善の多くは、コミュニティが自己防

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

衛のために講じた措置の成果であり、治安部隊が支援を強化したためでも武装集団の目的が変わったためでもない」

6.1.11 2019年4月12日にクエッタの野菜市場で発生した爆発を受けて（攻撃および死傷者を参照），ハザラ族コミュニティの住民は、クエッタ市内で座り込みによる抗議活動を行い、殺害を止めること、実行犯を逮捕することおよび治安対策を強化することを要求した。コミュニティの住民はカラチ市内でも集まり、暴力に対して抗議した。

6.1.12 ドーン紙の報道によると、野菜市場への襲撃の後、バロチスタン州首相の下で幹部会議が開催され、被害を受けた家族に資金援助を行うこと、および負傷者に対して治療費を支払うことが決定された。また、ハザルガンジ市場およびその他の公共の場所において直ちに監視カメラを設置することで合意した。テロリストの潜伏場所および指導者に対する措置を強化することになった。アブドゥル・ラッザク・チーマ州警察副長官は、ドーン・ニュースTVに対し、ハザラ族コミュニティの住民は、日常的にハザルガンジ市場への往来において治安部隊による護衛を受けていると述べた。

6.1.13 2019年4月25日、ディプロマット誌は以下のように報じた。

「[ハザラ族に対する]直近の襲撃の後、ジャム・カマル・カーン・アルヤニ（Jam Kamal Khan Alyani）バロチスタン州首相およびシェフリヤル・アフリディ前内務大臣がウェスタン・バイパス・ロード沿いのハザラ族のキャンプを訪問し、国による保護を保証した。また、4月21日、イムラン・カーン首相がクエッタ市を訪問し、ハザラ族コミュニティの住民と面会した。襲撃の犠牲者の家族が嘆き悲しむのを前に、カーン首相もまたNAP〔テロ対策戦略である国家行動計画〕が完全に実施されるようにすると再度約束し、パキスタンが平和を享受できる日が間もなく来るだろうと誓った」

6.1.14 ディプロマット誌はまた、以下のように指摘した。「（中略）治安当局は、そのような暴力の実行犯に対して措置を講じてきたと主張している。当局は、だからこそ過去とは異なり、ハザラ族に対する襲撃が散発的にしか起きなくなったと付け加えた。治安部隊は、ハザラ族の殺害に関与するラシュカレ・ジャンヴィの構成員に対し諜報活動に基づく作戦をクエッタ市内外で実施してきたと主張している」

6.1.15 首相はまた、2019年4月のクエッタ市への訪問中、バロチスタン州におけるテロ攻撃で家族を失ったハザラ族の家族に対し、新パキスタン住宅計画（Naya Pakistan Housing Scheme）の5%を割り当てると発表した。

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

7. 社会の姿勢および処遇

7.1 コミュニティ関係

7.1.1 NCHR は、2018年2月付の報告書で以下のように指摘している。

「国民党 (National Party (NP)) 所属でバローチー族の民族主義的指導者であるカビール・ムハンマド・シャヒ (Kabeer Muhammad Shahi) 上院議員は、NCHR に対し、バロチスタン州においては、ハザラ族とスンニ派コミュニティとの間でいかなる問題もないと語った。われわれは平和的に共存し、お互いに婚姻関係を築いてきた。バロチスタン州における宗派に基づく暴力を扇動しているのは国際的な計略であると、同氏は付け加えた。同様に、市民社会の一部メンバーもまた、『ハザラ族コミュニティの迫害は宗教的／宗派的問題ではなく、このコミュニティの殺害の裏には何か他の要素がある』と述べた」

7.1.2 DFAT の評価は以下のとおりである。

「クエッタ市内のハザラ族居留地内に留まるパキスタン国内のハザラ族は、社会的差別に直面していない。クエッタ市内のハザラ族居留地外では、ハザラ族は政府職員および治安部隊によるものを含め、検問所での妨害ならびに身分証明書の発行、雇用およびサービスの拒否または遅延という形態で社会的差別を受ける中程度のリスクがある。しかし、DFAT の評価では、そのような差別は組織的および／または正式で公的な差別ではなく、むしろ個人的偏見を反映したものである」(安全および補償の提供も参照)

7.2 反ハザラ族・シーア派感情

7.2.1 2019年4月12日に野菜市場で発生した襲撃を受けて、ディプロマット誌は以下のように報じた。

「LeJ [ラシュカレ・ジャンヴィ] は、パキスタンの三軍統合情報部 (ISI) から同国にとって『最も敵対的なテロ組織』の一つと名指しされ、米国によって制裁対象となっているが、そうした組織に対する取り締まりの厳しさについては疑問が残る。あるインタビューでは、SSP [LeJ の分派である (原文ママ) シパエ・サハバ・パキスタン] の指導者は、パキスタンの軍および情報当局から、2016年、『扇情的で反シーア的な言動を抑えつつ、基本的な方針は維持するよう』提言されたと公言した。他の例では、LeJ の指導者であるラマザン・メンガル (Ramazan Mengal) が、ハザラ族数十人の殺害を認め、深刻な人権侵害の疑惑があるにもかかわらず、金曜日の攻撃の2日前に当局によって釈放された」

「同様に、LeJ のような集団は、パンジャーブ州にルーツがあるが、引き続き公の場で遠慮なく反シーア派の集会、特にパキスタンにおけるハザラ族のコミュニティに反対する集会を開催している。クエッタ市内のメザン・チョーク (Mezan Chowk) で開催されたある集会を記録した映像では、LeJ の指導者が遠慮なく『シーア派は不信心者』とのスローガンを唱え、『[シーア派の]

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

ハザラ族コミュニティを一掃する』と脅迫する一方、FC 隊員および警察は集会の周囲をうろついている様子であった」

7.2.2 ディプロマット誌はまた、以下のように指摘している。「物理的な攻撃に加え、大量の脅迫および憎しみに満ちたスローガンがハザラ族コミュニティに向けられている。憎しみに満ちたスローガンが壁にチョークで書かれ、殺害予告が SNS に投稿され、反ハザラ的なリーフレットが同州各地で配布された」

7.2.3 NCHR の報告書によると、「宗教指導者および宗教集団によるハザラ族コミュニティに対するヘイトスピーチは、コミュニティをさらにのけ者として追いやることになり、こうしたあからさまな差別によって、ハザラ族コミュニティは、公的な生活、移動、経済活動等の基本的自由が奪われている」

第 8 節 更新日：2019 年 9 月 23 日

8. 社会経済的状況

8.1 教育の機会

8.1.1 2015 年 5 月 20 日、ザ・ニュース・インターナショナルは、以下のように報じた。「フサイン・ハザーラ・ゴートの住民であるムハンマド・アリ (Muhammad Ali) によると、公立大学および私立大学にハザラ族の学生はいるものの、その数は市内に居住するハザラ族の若年人口の実際の割合を反映していない。『彼らは通常、公立大学に通う経済的余裕さえないので。余裕があっても、稼いだお金が教育につぎ込まれれば、家族が生きていくのが難しくなります』とアリは語った」。同紙はまた、ある活動家が「カラチでは、ハザラ族が多数派を占める地域の近くの学校およびカレッジの水準は非常に嘆かわしい状況です」と述べたと報じた。

8.1.2 HCRP による 2018 年の報告書は、「ハザラ族が安全のために強制的に隔離されていくにつれ、子どもたちの教育が阻害され、繁盛していたビジネスも廃業に追い込まれている」と指摘している。NCHR は、「ハザラ民主党 (HDP) のある代表は、NCHR に対し、現在の状況になる前は、ハザラ族の子どもたちはハザラタウンの外にある学校に通学していたが、現在の治安問題の影響で法執行機関が検問所を設置し封鎖したため、生徒が学校に通学するのが容易になるどころか困難になっていると述べた」と報告した。

8.1.3 NCHR の報告書は、以下のように指摘している。「ハザラ族コミュニティでインタビューを受けた人々は、現状、バロチスタン州において高等教育を追求することは難しいと明かした。ハザラ族コミュニティ出身の学生は、暴力を恐れ、高等教育機関に進学することをためらっていると説明した」

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

8.1.4 同報告書は、以下のように付け加えた。「ハザラ族コミュニティの回答者は、ハザラ族の学生を乗せているバスは、学生たちがいることを隠すため、黒い布で覆われていると主張した。あるコミュニティの活動家は、治安状況の悪化に伴い、学生たちは今や州外の大学への進学を希望せざるを得なくなっており、バロチスタン大学（Balochistan University）へのハザラ族学生の進学が非常に少なくなったと主張した」

8.1.5 DFAT 報告書は、以下のように指摘している。「ハザラ族の主張によると、居留地内には公立カレッジが 2 校あり、入学制限はなく、オーストラリアにおける 6 歳から 12 歳の児童に対するものと同等の教育が行われる。居留地には大学はない。ただし、DFAT はこれらの主張を検証できない。居留地外での教育を求めるハザラ族は、差別および暴力に直面するリスクが高い」

8.1.6 2019 年 4 月、ディプロマット誌は以下のように報じた。「宗派に基づく暴力により、クエッタ市内では、ごく一握りの学生（ほとんどが女性）しか地元の大学には通学していない。学生たちはバスに乗って家に向かうまで、かつそうしない限り、大学の敷地を離れる事はない。ハザラ族の学生のほとんどはバロチスタン州外、パンジャーブ州およびシンド州にある大学に通学している。学業のためにカラチ市に向かう際にさえ、ハザラ族の学生は標的にされ、殺害されてきた」

8.1.7 ヒューマン・ライツ・ウォッチ（HRW）による 2018 年 11 月付の報告書は、パキスタンにおける女児の教育の機会の問題について検証し、以下のように指摘した。「ナイラ（Naira）は、クエッタ市内のカレッジの生徒である 10 代になる娘のことを心配している。ナイラは、クエッタ市内での生活は刑務所さながらであるとし、ハザラ族コミュニティに対する標的を絞った攻撃があまりにまん延しているため、他の民族集団出身の女子生徒からハザラ族の女子生徒と一緒に移動しないように言われたり、公共交通機関で近くに立たないようにと言われたりしていると述べた。あるバロチスタン州の活動家は、ハザラ族の学生を教育から追い出すことが宗派集団の目的であると考えていると述べた。『彼らは、私たちが軍、スポーツ、教育に進出しているため標的にしているのです』と述べた。『私たちはバロチスタン州の様々な大学で常に最高の成績を修めてきました。しかし今やバロチスタン大学に通学する [ハザラ族の] 子どもたちはほんの一握りしかいません。これは、私たちを抑圧するための集中的な運動なのです』」

8.2 雇用の機会

8.2.1 NCHR は、以下のように指摘した。

「クエッタ市では、ハザラ族のほとんどは生計を立てるためにビジネス、貿易および政府の仕事に依存している。回答者は、NCHR に対し、迫害前は豊かな生活を送っていたと述べた。ソネリ市場（Soneri Market）、スピンザル市場（Spinzar Market）、リアカット市場（Liaquat Market）、ジャンクション市場（Junction Market）、バルディア・プラザ（Baldia Plaza）、アブドゥル・サッ

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

タル・ロード (Abdul Sattar Road)、リアカット・ロード (Liaquat Road) がハザラ族にとっての主要なビジネスの中心地であった。しかし、ハザラ族が頻繁に襲撃を受けるようになり状況は変わった。回答者は、ハザラ族であることから、店主はより高い賃料を要求し、事業を継続することが金銭的に困難になっていると感じている。ハザラ族の経済活動全体が、今やハザラ族が居住する区域に限られ、選択肢がほとんどなくなった。物品の売買のために域外に出られないことから、経済的損失が生じている。現在は仲介人が物品を提供しているが、多額の手数料はハザラ族の商売人および消費者にとってさらなる金銭的負担となっている」

8.2.2 NCHR は以下のように付け加えた。

「ハザラ族コミュニティによると、現在の状況になる前は、公務員および政府のその他の仕事におけるハザラ族の採用は多く、バロチスタン州内で様々な地位や役職を務めていた。状況の悪化により、公務員におけるハザラ族の割合は減少し、権力構造は弱体化した。このような状況のため、コミュニティ全体が重点をビジネス、銀行業等その他の分野へと移したが、州行政において享受していた分の損失を埋め合わせるには至っていない。彼らはさらに、ハザラ族は、殺害されるおそれがあるため、バロチスタン州では仕事を得られる立場にないと述べた。ムザファー (Muzafar) というあるハザラ族男性は、NCHR に対し、クエッタ市で政府の仕事を打診されたが、情勢不安から、就職を断ったと述べた。男性はさらに、このような情勢不安および迫害のため、『ハザラ族の若者の多くが失業している中、私たちは生活や将来に対して途方に暮れています』と主張した」

8.2.3 DFAT 報告書によると、

「従来、バロチスタン州政府は、クエッタ市のハザラ族にとって主要な雇用先であった。ハザラ族は現在、移動に対する恐怖から仕事を断っている。ハザラ族の主張によれば、市内の職場まで安全に移動できないことを理由に、民間企業から採用を断られている。ハザラ族の若者は、国内の他の若者と同様に、仕事のために移動する必要がある。クエッタ市に住むハザラ族の多くは、居留地内のハザラ族コミュニティにサービスを提供している。仕事を求めて国内各地の他の都市への移住を試みる者もいる」

第9節 更新日：2019年9月23日

9. 保健福祉

9.1.1 NCHR は、ハザラ族コミュニティの住民によると、主要な 2 か所の公立病院、すなわちボラン・メディカル・コンプレックスおよび市民病院 (Civil Hospital) が安全でない地域に所在しているため、人々は治療のために通院することを恐れていると指摘した。ハザラ族区域内にある

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

民間病院は、高価で手が届かないことが多い。報告書は、ハザラ族は「公立病院が居住区域外に位置しているため、医療施設へのアクセスが制限されている」と指摘した。

9.1.2 DFAT 報告書は、以下のように指摘している。

「ハザラ族の主張によれば、ハザラタウンには病院および公立の診療所が 1 か所ずつあり、いずれもハザラ族の医師が勤務している。経済的余裕があるコミュニティの住民は治療のためにカラチ市まで通っているが、そうでない住民は、危険を冒して、クエッタ市内のハザラ族居留地外まで治療を受けに行く。ハザラ族の主張によれば、民間慈善団体の救急車は、ハザラタウン内外の救急搬送を行っているが、救急隊員の拉致事件が発生したため、ハザラ族は救急車での搬送に恐怖を抱く結果になった。DFAT はこれらの主張を検証できない」

道路安全も参照。

9.1.3 精神衛生に関して、コミュニティの住民は、NCHR に対し、続く暴力の脅威、移動の制限および社会経済的な状況が、ハザラ族に対して心理的悪影響を及ぼしていると述べた。NCHR は、「このような懸念によってコミュニティ内では不安が広がっており、安心感を得るために麻薬に手を出すようになっている。コミュニティの住民はまた、パラノイアおよび妄想行為の兆候を示している」との証言を得た。

附属書 A

パキスタン平和研究所との通信

2016 年 5 月 4 日水曜日午後 8 時 13 分、<削除><削除>@homeoffice.gsi.gov.uk によるメッセージ：

拝啓 <削除>様

私はパキスタンに居住するハザラ族に関する研究を行っており、特にクエッタ市外に居住するハザラ族に関する情報について求めています。例えば、各州／各県に所在するハザラ族の人口推計、コミュニティに溶け込んでいる程度、社会全般／当局からの処遇といった情報です。

ご担当の分野かどうかは存じ上げませんが、何らかのお力添えを頂ければ幸いです。

お返事をお待ちしております。

敬具

<削除>

当翻訳は、出入国在留管理庁による仮訳であり、正確には原文に当たってください。また、今後当仮訳は精査の上、変更されることがあり得ることに御留意ください。

差出人：<削除>@gmail.com

送信日時：2016年5月5日08:58

宛先：<削除>

件名：Re: FW: 情報提供依頼—クエッタ市外に居住するハザラ族について

拝啓 <削除>様、

パキスタンにおけるハザラ族の人口分布を追跡することはなかなか困難です。クエッタ市における宗派に基づく殺害事件後、多くの家族が国内各地、特にすでに相当数のハザラ族住民がいるカラチに移住したためです。カラチ市には、2万5千世帯が居住していると推計されています。ハザラ族は、同市のフサイン・ハザーラ・ゴートおよびムガル・ハザーラ・ゴート地区に集住しています。イスラマバード市でのお金のかかる生活を送る余裕のある人々は首都に移住しましたが、その数は多くありません。報道によると、数世帯がラホール市に移住し、シア派住民の中に混ざって暮らしているとのことです。

敬具